

IODEP マニュアル  
《MOXA E2000 シリーズ》  
rev 1.0

2013/04/18 株式会社 Javatel

# 目次

IODEP マニュアル 《MOXA E2000 シリーズ》 rev 1.0.....	1
目次.....	2
1 この文書について.....	3
2 変更履歴.....	4
3 ハードウェアの準備.....	5
3.1 MOXA E2000 シリーズの準備.....	5
4 設定ファイルの準備.....	6
5 MOXA デバイス→IODEP.....	7
5.1 連携デバイスにコマンドを送信するための Click&Go Logic 編集手順.....	7
5.1.1 MOXA ioAdmin で Click&Go Logic を編集する.....	7
5.1.2 ロジックを実行する.....	8
6 IODEP→MOXA デバイス.....	9
6.1 定義ファイル名.....	9
6.2 実行コマンド詳細.....	9
6.2.1 Moxa E2000 シリーズデバイスへの実行コマンド書式.....	9

## 1 この文書について

本文書では、IODEP と MOXA E2000 シリーズとの連携方法について記述します。「IODEP\_共通.doc」を先に読んでいることを前提とします。

## 2 変更履歴

1.0 2013/04/18 マニュアルの文書構成を大幅に見直し。複数ファイルに分割。

## 3 ハードウェアの準備

### 3.1 MOXA E2000 シリーズの準備

MOXA E2000 シリーズのデバイスは、LAN 接続(TCP-IP)のみをサポートします。必ず各デバイスに固定の IP アドレスを割り振った後は、付属の「ioAdmin」ソフトウェアにてマニュアル通りに設定して下さい。  
本アプリケーションのための特別な設定は必要ありません。

## 4 設定ファイルの準備

インストールフォルダ C:\¥Javatel¥IODEP にある、**iodep.ini** ファイルをテキストエディタで編集してください。空行および、行頭が「#」で始まる行は無視されます。

IODEP.moxaHost.1	コマンド実行およびコマンド受信する MOXA E2000 シリーズデバイスの IP アドレスとポート番号を「:」で連結して記述します。ポート番号は常に 502。
IODEP.moxaHost.n (n は自然数)	同上。ライセンスで許可された数だけ設定できます。
IODEP.moxaListenPort	MOXA E2000 シリーズの ActiveMessage 受信のために待ち受けるポート番号。デフォルト 9000。ファイアウォールでこのポートへのアクセスを許可しておく必要があります。

## 5 MOXA デバイス→IODEP

本アプリケーションでは、MOXA E2000 シリーズの「Click&Go Logic」に対応しています。所定の書式で ActiveMessage を発行すると、サポートしているデバイスに対してコマンドを実行することができます。

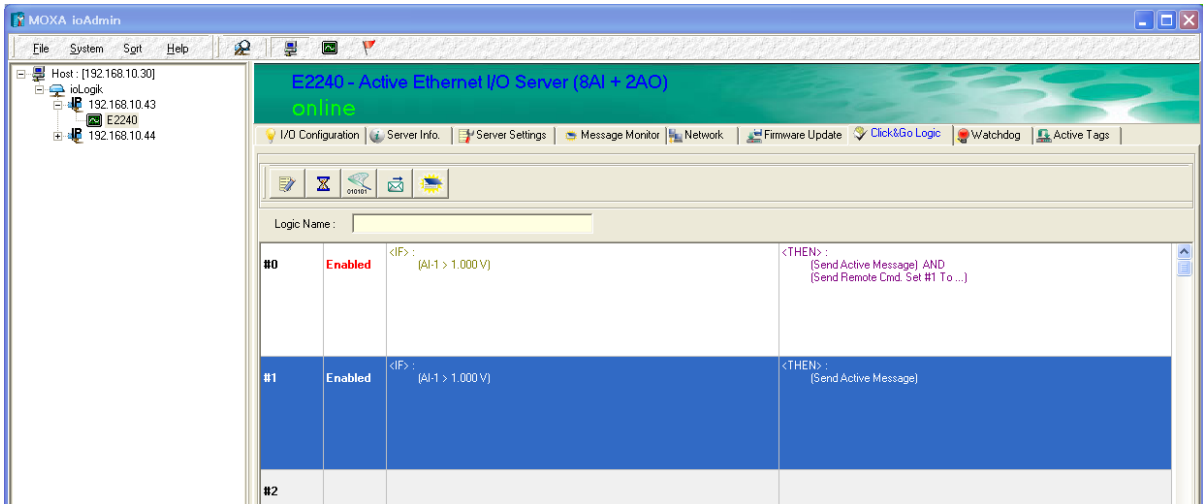
また、この章での Click&Go Logic 編集の前後で、本アプリケーションの再起動は必要ありません。

### 5.1 連携デバイスにコマンドを送信するための Click&Go Logic 編集手順

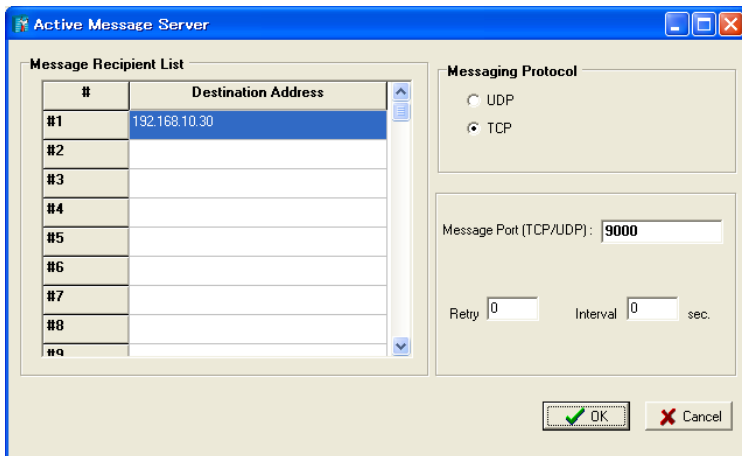
MOXA ioAdmin ツールにて、デバイスから本アプリケーションにコマンドを送信するための手順について解説します。

#### 5.1.1 MOXA ioAdmin で Click&Go Logic を編集する

1. ioAdmin ユーティリティツールを起動し、ログインして「Click&Go Logic」タブを開きます。(すでにデバイスにセーブしてあるロジックがある場合は画面下部の「Retrieve」で取り込みます。)

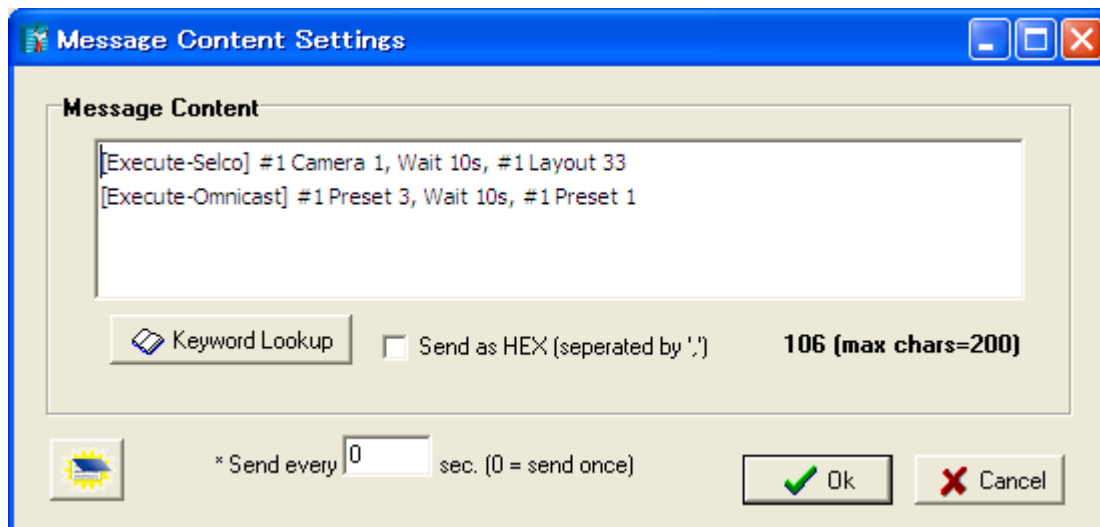


2. 「Active Message Server」ボタンをクリックし、Active Message の送信先として、本アプリケーションのサーバが稼働するマシンの IP アドレスを設定して「OK」をクリックし、ダイアログを閉じます。ポート番号はエラー! 参照元が見つかりません。章の設定ファイルで設定した待ち受けポート番号を指定します。(デフォルト 9000 番)



3. 続いてロジックの編集画面で、「IF」の欄でイベントを発生する条件を設定した後、「THEN」の欄で「Active Message」を選択し、詳細内容の「編集」ボタンをクリックしてメッセージの内容編集ダイアログを開きま

す。



4. 「Message Content」として、各行に
  - ・ **Omnicast への実行コマンド**の場合は[Execute-Omnicast] から開始して、「IODEP\_共通.doc」の書式に従ったコマンド群
  - ・ **Selco マルチプレクサへの実行コマンド**の場合は[Execute-Selco] から開始して、「IODEP\_SELCO.doc」の書式に従ったコマンド群
  - ・ **MOXA E2000 シリーズへの実行コマンド**の場合は[Execute-Moxa] から開始して、6.1 章の書式に従ったコマンド群
  - ・ **PELCO スイッチャへの実行コマンド**の場合は[Execute-Pelco] から開始して、「IODEP\_PELCO.doc」の書式に従ったコマンド群
  - ・ **登録メールアドレスへのメール送信**の場合は[Execute-Sendmail] から開始して、「IODEP\_SMTP.doc」の書式に従ったコマンド群を記述します。

(註) コマンド定義ファイルでは、複数の実行コマンドをタブ文字で連結しましたが、ここではカンマで連結します。なお、カンマの前後にスペースを入れることは自由です。
5. 「OK」をクリックしてダイアログを閉じ、ロジック編集画面で「OK」をクリックしてロジック編集を完了します。
6. 画面下部の「Download」ボタンをクリックしてロジックをデバイスに保存します。

## 5.1.2 ロジックを実行する

E2000 シリーズに保存したロジックは、条件に一致する入力があれば自動的に実行されます。



## 6 IODEP→MOXA デバイス

### 6.1 定義ファイル名

コマンド定義ファイルのファイル名は、以下のように決められています。

- ・ ダイコク電機ホールコンピュータから受信したシグナルによって Moxa E2000 シリーズへコマンド実行する定義  
→daikoku-moxa.dbx
- ・ SMTP メール送信の TO アドレスによって Moxa E2000 シリーズへコマンド実行する定義  
→smtp-moxa.dbx
- ・ ステラス F-1 監視システムから受信したシグナルによって Moxa E2000 シリーズへコマンド実行する定義  
→daikoku-moxa.dbx

### 6.2 実行コマンド詳細

#### 6.2.1 Moxa E2000 シリーズデバイスへの実行コマンド書式

Moxa E2000 シリーズ用の定義ファイルでは、以下の要素を半角スペースでつなげてコマンドを定義します。

#3 (半角スペース) Aout (半角スペース) 2 (半角スペース) 2.5V  
 デバイス番号                      コマンド                      チャンネル                      引数

- ① デバイス番号  
Moxa E2000 シリーズのデバイスの番号。アプリケーションの設定ファイル(**iodep.ini**)で定義された番号を使う。
- ② コマンド  
大文字小文字は区別しない。下記コマンド一覧を参照。
- ③ チャンネル  
Moxa E2000 シリーズのデバイスのチャンネル番号
- ④ 引数  
コマンドの補足情報  
アーカイブに daikoku-moxa.dbx.sample を添付します。

表 1 実行コマンド定義の例

コマンド定義の例	解説
#1 Relay 3 1	デバイス#1 でリレースイッチ 3 チャンネルを ON にする
#2 Aout 2 1.5V	デバイス#2 で、アナログ出力 2 チャンネルを 1.5V にする
Wait 1s	1 秒間ウェイト

表 2 コマンド一覧

コマンド	デバイス番号	チャンネル番号	引数	内容
Relay	整数値	整数値	1(ON)または 0(OFF)	指定したチャンネルのリレースイッチを ON または OFF にする
Aout	整数値	整数値	アナログ出力値。「~V」「~mA」もしくは「~%」と指定。	指定したチャンネルのアナログ出力を任意の値に設定する

2013 Javatel

Wait	なし	なし	ミリ秒(末尾にsをつけると秒)	ウェイト
------	----	----	-----------------	------